

古道がもたらした 時代ごとの栄華が 彩りを見せる

江戸初期の重厚な町家に贅を凝らした明治の町家もあれば、大正、昭和のレトロな町家もあり。各時代の建物が混在して多彩な「顔」が揃うのは、田原本の圧倒的に長い繁栄の足跡です。

すでに弥生時代には周囲に濠（ほ）を巡らせた近畿最大の環濠集落（唐古・鍵遺跡）があり、遠隔地との交流品も出土。7世紀になれば藤原京から平城京へとつながる大動脈の下ツ道（しもつみち）が通り、中世・近世にはそれを中街道として町の中心に引き入れてさらに発展。大和川からの水路と合わせ、水運・陸運共に恵まれた交易の地として繁栄を重ねました。

江戸時代には領主平野家の庇護のもと、特色ある町文化が開花。寺内町、陣屋町、問屋町の顔も



〈近日の主な祭り〉
6/3(日) 鍵の蛇巻き・今里の蛇巻き
7/21(土) 津島神社 祇園まつり 22(日)

田原本町観光協会
(田原本町役場内)
☎0744-34-2080

- ①浄照寺 ②平野廟 ③本誓寺
- ④津島神社 ⑤寺前通り ⑥村田家
- ⑦竹村家 ●は道標

併せ持ち、「大和の大坂」と呼ばれるほどの隆盛に。富を蓄えた商人は立派な町家をさらに建て替え、各時代が連なる町並みとなりました。街道に立つ道標が多いのも、祭りが数多く伝わるのも、この地ならではの。裕福な商人たちの豊かな財力によるものです。

遺跡を訪ね、古道を歩き、移り変わる時代の「顔」や古くからの祭りを楽しんで、栄華の名残が、町歩きに彩りを添えています。



「浄照寺」
寺内町の要となる大寺院。「賤ヶ岳の七本槍」で有名な初代領主・平野長泰の長男、長勝が建立。本堂は県指定文化財。



「平野廟」
浄照寺の隣、本誓寺境内墓地にある方形造本瓦葺の平野家霊廟。2代領主・長勝、9代領主・長発の霊廟が並んで建つ。



「たすきの会(田原本・まちをすきになる会)」
荒廃する江戸初期建築の武村家・村田家の保存活動をきっかけに、約2年前に会を発足しました。町家や地蔵盆の歴史調査を手がけたり、講演会やフォーラムなども開催。大学関係者や行政も巻き込みつつ、地区住民75名が「町の目線」から活動をしています。
(村田家前にて談・中西秀和代表)

「中街道(旧下ツ道)」
すべてはこの道から始まった。古代より交通の要所として栄えた田原本町。街道の要所に立つ道標は、商人たちが建立したものの、当時の権勢ぶりを今に伝える。

